

Pro Tools LE 7.4 on Windows

この書類には、Digidesign が推奨する Windows のバージョンが起動する Windows システム上で動作する Pro Tools LE 7.4 に関するユーザー・ガイドの訂正事項、互換性情報、既知の問題、エラー・コード点等が記載されています。最新の互換情報に関しましては Digidesign のウェブサイト (www.digidesign.com/jp) をご覧ください。

新しいバージョンの Pro Tools をインストールする前に旧バージョンをアンインストールする

お使いのコンピュータに以前のバージョンの Pro Tools がインストールされている場合は、新しいバージョンの Pro Tools をインストールする前に旧バージョンをアンインストールする必要があります。これにはプログラム削除用の Windows コマンドを使用します。

コンピュータから Pro Tools をアンインストールするには (Windows Vista):

- 1 [スタート]>[コンピュータ]を選択します
- 2 [コンピュータ]ウィンドウから [プログラムの削除と変更] をクリックします
- 3 Pro Tools を選択します
- 4 [削除] をクリックします
- 5 画面の指示に従い Pro Tools を削除します

コンピュータから Pro Tools をアンインストールするには (Windows XP):

- 1 [スタート]>[コントロールパネル]を選択します
- 2 [プログラムの追加と削除] をダブルクリックします。
- 3 現在インストールされているプログラムのリストから Digidesign Pro Tools を選択します
- 4 [変更と削除] ボタンをクリックします
- 5 画面の指示に従い Pro Tools を削除します

互換性

Digidesign は、Digidesign が動作確認を行ったハードウェア及びソフトウェア環境のみを互換 / 対応情報として提供しています。動作確認済みのコンピュータ、オペレーティング・システム、及びサードパーティ機器等に関する最新情報は、Digidesign の Web サイト (www.digidesign.com/jp) でご確認ください。

データベース・ファイルの互換性

Pro Tools 7.x は新しい Digidesign データベースのファイル形式を必要とします。Pro Tools のバージョン 6.x で作成されたデータベース・ファイルは、Pro Tools 7.x の初回起動時に削除されます。検索速度を上げるために、使用されているドライブを再インデックスしてください。DigiBase データベースのインデックスに関する詳細は、*Pro Tools リファレンス・ガイド* をご覧ください。

メモリーロケーションのコメント欄の文字数増加 (Item # 83593)

Pro Tools 7.3 以降では、メモリーロケーションのコメント欄で許容される文字数が増加しました。以前のバージョンの Pro Tools で Pro Tools 7.3 以降のセッションを開くと、258 文字を超えたテキストは、メモリーロケーションのコメント欄に表示されません。

Windows XP スタンバイモードと Digi 002 または Digi 002 Rack (Item #47054)

Windows XP をスタンバイモードにする前に、Digi002 または 002 Rack を外してください。

ソフトウェアをインストールする前に Windows と Pro Tools LE ハードウェアをセットアップする

ハードウェアをインストールしコンピューターを起動した後、[新しいハードウェアが見つかりました] というウィザードが表示されるまで待ちます。ウィザード画面をそのままにして、Windows 用の Pro Tools LE インストーラを CD-ROM ドライブにセットします。Pro Tools LE Installer フォルダの中にあるセットアップ・アイコンをダブルクリックします。インストールを正しく行うため、ご使用のシステムのスタートアップ・ガイドをよくお読みになってインストール作業を行ってください。

TDM と LE システム間のプラグインを伴ったセッションの転送

LE と TDM 間でセッションを転送する場合、プラグイン設定は、そのセッションの Plug - In Settings (プラグイン設定) フォルダへ手動でコピーします。これにより正確なプラグイン・プリセット名が復元されます。

Digidesign Wavedriver を使用してプレイバック中にノイズが入る (Item #70492)

Wavedriver を使用してプレイバックしている最中に、オーディオがスタッターすることがあります。

確認されている問題点

ここでは、Pro Tools LE 7.4 の使用時に生じる問題点とその回避方法について記載しています。

Pro Tools

Vista システムにおいて、外部の FireWire HFS+ ドライブ上の Pro Tools セッションやインストーラを起動する際にダブルクリックを使用することはサポートされていません (Item #98779)

Vista システムにおいて、外部の FireWire HFS+ ドライブ上に配置された Pro Tools セッションやインストーラを起動する際は、そのセッションやインストーラを起動するためにダブルクリックを使用することはできません。HFS+ ドライブ上の Pro Tools セッションを起動するには、最初に Pro Tools を起動して、次に [ファイル] メニューの [セッションを開く] コマンドを使用してセッションを開きます。Pro Tools のインストールに関しては、インストーラを内蔵ドライブにコピーして、そこから起動してください。

Vista システムで Start + L を実行すると、「カーソルを左へナッジ」ではなく、「アドミンユーザー切り替え」プロンプトが起動する (Item #98665)

Vista システムで Start + L を実行すると、「カーソルを左へナッジ」ではなく、「アドミンユーザー切り替え」プロンプトが起動します。この場合は、キーボード・フォーカス (A...Z) をオンにして、L キーを使用してください。

[RTAS Error Suppression (RTAS エラー抑制)] 有効時は、CPU 使用限度に達する可能性がある (Item #83343)

CPU 使用限度を 85% 以上で [RTAS Error Suppression (RTAS エラー抑制)] を有効にした場合、コンピュータがオーバーロードしてレコーディングができなくなる場合があります。[RTAS Error Suppression (RTAS エラー抑制)] を有効に設定しているときは、CPU 使用限度を 80% 以下に設定してください。

LE パリフェラルをスワップした際、「新しいハードウェアを検出」ウィザードで適切なドライバをロードできないデバイスがある (Item #82574)

LE パリフェラルを取り変えると、「新しいハードウェアを検出」ウィザードが、そのデバイスを正しく認識せず、必要なドライバをインストールできない場合があります。これが起こった場合、新しいデバイスを接続して、Windows コントロールパネル内の「プログラムの追加と削除」から、Digidesign Pro Tools LE を選択し、「変更」をクリックし「修正」インストーラを起動します。「新しいハードウェアを検出」ウィザードとともに、ドライバのインストールが完了します。

[RTAS Error Suppression (RTAS エラー抑制)] を有効にして、CPU 使用限度を高く設定していると、画面のリドローがスローダウンする (Item #82915)

[RTAS Error Suppression (RTAS エラー抑制)] を有効にして、CPU 使用限度を 85% 以上に設定すると、画面のリドローやバックグラウンド CPU タスクがスローになる可能性があります。RTAS Error Suppression を使用中にこれが起きた場合、プレイバックエンジン・ダイアログを開いて、CPU 使用限度を 5 ~ 10% 低くしてください。

Mbox 2 Pro はハイ・サンプルレート時の外部クロックをサポートしていません (Item #79394, 80746, 80961, 76544)

Mbox 2 Pro は最大 96 kHz のサンプルレートをサポートしていますが、外部クロック・ソース (S/PDIF 及び Word Clock) は、44.1 kHz 及び 48 kHz のサンプルレート・セッションだけでサポートされています。

外部シンク・ソースのサンプルレート変更するとトランスポートが無効になる (Item #76544)

Pro Tools のクロック・ソースが S/PDIF または Word Clock の場合に外部ソースが変更されると、同期が外れ、同期復旧時の 9092 エラーによりプレイバックできない可能性があります。これは Pro Tools のトランスポートが動作中に外部ソースのサンプルレートが変更された場合に起こります。

この状況を回避するに、外部シンク・ソースが Mbox 2 pro と常に同じサンプルレートであることを確認してください (特にプレイバック中)。

この状況を補正するには :

- 1 Pro Tools 内で [設定] > [ハードウェア] を選択して、クロック・ソースを内部 (インターナル) に変更します。
- 2 外部シンク・ソースが正しく接続され、Mbox 2 Pro と同じサンプルレートであることを確認します。
- 3 Pro Tools 内で [設定] > [ハードウェア] を選択して、クロック・ソースを目的のソース (S/PDIF, Word Clock または Internal) に設定します。

S/PDIF 出力を Direct Sound へ送った際のオーディオ・フリッカー (Item #78529)

サードパーティ製アプリケーションの使用時は、クリーンな S/PDIF 出力用に Wave または ASIO 出力を使用します。

Windows Explorer または Mac Finder からはプレビューできません (Item #78473)

Pro Tools セッションを開いている時に、Mac Finder や Windows Explorer で Pro Tools に関連するオーディオ・ファイルをダブルクリックしても、オーディオ・プレビュー用 DigiBase 内のファイルは開きません。代わりに、現在のセッションのリージョン・リストへファイルがインポートされます。Pro Tools を使用してオーディオ・ファイルをプレビューする場合は、ワークスペース・ブラウザを開き、プレビューしたいオーディオ・ファイルへとナビゲートして、オーディオ・ファイル用の波形コラムにあるスピーカー型のアイコンをクリックしてください。

インストールメント・トラックや Aux 入力に、ソフトウェア・インストールメントをインサートしても音が出ない (Item #65797)

ソフトウェア・インストールメントによっては、音も鳴らず、再生もしないものがあります。これが起こった場合は、ハードウェア・インプットをインストールメント・トラックまたは Aux インプットに、MIDI アウトプットをインストールメント・トラックへ手動でアサインします。

ワークスペース・ブラウザ内で、ある特定ファイルのエラスティック分析を計算 / クリアできない (Item #89026)

エラスティック・オーディオによりサポートされるファイル・フォーマットの拡張子が付いているにもかかわらず (.wav または .aif) Pro Tools のワークスペース・ブラウザがエラスティック分析の計算またはクリアを実行できない場合がごく稀にあります。ブラウザ・メニューの [エラスティック分析を計算] 及び [エラスティック分析をクリア] がグレイアウトします。このような場合、ファイルが実際に非サポートのフォーマットである可能性があります。ファイル・フォーマットを確認す

るために、ワークスペース・ブラウザのフォーマット欄をご覧ください。QuickTime などの WAV または AIFF 以外のファイル・フォーマットが示されている場合は、エラスティック分析の計算またはクリアを実行することはできません。とはいえ、これらの非サポート・ファイルはテンポに合わせて視聴することも、セッションへインポートすればエラスティック化することもできます。

Pro Tools 5.1 ~ 6.9 フォーマットでセッションを保存した際にリージョン・ループが欠落する (Items #90102, 90079)

5.1 ~ 6.9 でセッションを保存すると、「リージョン・ループが失われます」という旨のダイアログが表示されます。これを回避するためには、Pro Tools の下位バージョンでセッションを保存する前に、[リージョン]>[ループ解除]>[フラットに]を実行します。

エラスティック・オーディオをモノフォニックまたは X-Form アルゴリズムで使用した際、オーディオ・ファイル内にドリフトが発生する (Item #96151)

エラスティック・オーディオを使用する際にオーディオ・リージョン内にドリフトが発生することがありますが、これはリージョンがモノフォニックまたは X-Form アルゴリズムを使用してどの程度伸縮されるかに依存します。トランジェント情報を持つ素材にエラスティック・オーディオを使用し、かつドリフトを回避したい場合は、ポリフォニックまたはリズムミック・アルゴリズムをご使用ください。

異なるテンポの Reason ソングを開いた後、ティックベース・トラック上のオーディオ・リージョンが、正しいテンポで再生されない (Item #96710)

セッションと異なるテンポの Reason ソングを開くと、ティックベースのトラック上にあるオーディオ・トラックが正しいテンポで再生されないことがあります。コンダクターまたはマニュアル・テンポ入力経由でテンポ変更を施すと、リージョンが正しく再生されます。

Beat Detective の [小節 | 拍マーカーを生成] でテンポマップを作成すると、レンダー・モード内のリージョン・グループがオフラインになる (Item #97993)

Beat Detective の [小節 | 拍マーカーを生成] でテンポ・マップを作成すると、レンダー・モードのリージョン・グループがオフラインになることがあります。オフラインになったリージョンに編集を加え、エラスティック・オーディオをレンダーからリアルタイムに変更し、再度レンダー・モードへ戻すことでオンラインになります。

リアルタイム・エラスティック・オーディオ・トラックの波形表示 (Item #98343)

エラスティック・オーディオのリアルタイム・プロセッシングを使用している場合、使用しているアルゴリズムに関わらず、Pro Tools にはヴァリスピードの波形が表示されます。これは、全てのエラスティック・オーディオ・プロセッシングがリアルタイムに処理され、波形自体はどのようにサウンドするかを予測であることに起因します。レンダー・モードへ切り替えることで、使用しているアルゴリズムによってレンダーされた場合の実際のオーディオの様相を視認できます。

オーディオをインポートすると、IXML メタデータを持ったステレオ・インターリーブ WAV ファイルが 2 つの個別のモノ・トラックに分割される (Item #98841)

オーディオをインポートすると、IXML メタデータを持ったステレオ・インターリーブ WAV ファイルが 2 つの個別のモノ・トラックに分割される場合があります。ワークスペースを使用して、ファイルを編集ウィンドウまたはステレオ・トラック上に直接ドラッグしてください。

セッションのテンポでインポートされたエラスティック・オーディオ用「デフォルト・インプット・ゲイン」(Item #96725)

[初期設定]>[プロセッシング]ページにある[エラスティック・オーディオ]>[デフォルトインプットゲイン]は、セッション・テンポでインポートされたエラスティック・オーディオ用の設定です。ワークスペース内の[コンテキスト視聴]がオン、またはプロセッシング初期設定ページ内の[デスクトップからのドラッグ&ドロップはセッション・テンポに合わせる]がオンに設定されていない限り、この初期設定オプションは機能しません。

エラスティック・オーディオを含んだリージョン・グループは、そのリージョン・グループ自体にエラスティック機能が適用されていない場合、エラスティックとして認識されない (Item #92770, #97107)

リージョン・グループ内にエラスティック・オーディオが含まれているが、リージョン・グループ自体の最外層においてエラスティック・オーディオ操作がなされていない場合は、そのリージョン・グループはエラスティック・オーディオとして認識されません。新規トラック作成に用いられる場合、トラックは自動的に [エラスティック・オーディオ 有効] には設定されず、リージョン・グループ内のエラスティック・オーディオは、そのセッション用のデフォルト・エラスティック・オーディオ・プラグインを使用してレンダーされます。これは、リージョン・グループにワーブ・マーカーを追加して、強制的にエラスティック・リージョンと認識させることで回避できます。または、[エラスティック・オーディオ 有効] に設定したトラックを最初に作成した後に、リージョン・グループを追加します。

[ソース・メディアから統合] オプションを使用してエラスティック・オーディオをインポートできない (Item #96404)

[ソース・メディアからコピー] を使用して、エラスティック・オーディオ・トラックをインポートしてください。

AudioSuite とリージョン・グループ (Item #64410)

オーディオ・ファイルとリージョン・グループでは、AudioSuite プラグインの処理がわずかに異なります。オーディオに関しては、“リージョンリスト参照” を選択して、“プレイリストに使用” を選択すると、AudioSuite プロセスがセッション内に現れるオーディオ・ファイルの全コピーへ適用されます。しかし、リージョン・グループを選択中に、ターゲットが AudioSuite プラグイン・ウィンドウ内の“リージョンリスト参照” にセットされていると、ProTools はリージョン・グループをプロセス可能なオーディオと認識せず、“オーディオが選択されていません” というエラーが現れます。これは、実際にトラックの中で使用されるまで、リージョン・グループが“オーディオ” ユニットとして認識されないために生じます。

セッション内にあるすべてのリージョン・グループのコピーに、瞬時に AudioSuite を適用するには、下記の通りにします。

- 1 プロセスするリージョン・グループを選択します。
- 2 リージョン・メニューから [すべてのグループ解除] を選択します。グループ内の全要素が選択されたままの状態になります。
- 3 AudioSuite プロセスを実行します。
- 4 リージョン・メニューから [再グループ] を選択します。

プロンプトが表示されたら、セッション内のリージョン・グループの全コピーへ AudioSuite を適用する場合は“修正” を選択し、選択されたリージョン・グループのみに適用する場合は“コピー” を選択します。

MP3 Codec は著作権保護されたファイルをエクスポートしない (Item #68985)

Pro Tools 7.3 以降における新しい MP3 Codec は、著作権保護されたファイル属性をエンコードする機能はありません。これはフラウンホーファーの新しい Codec 制限です。

QuickTime がインストールされていない状態で MP3 もしくは MP4 ファイルをインポートする。(Item #62994)

QuickTime が存在しないシステムで、Pro Tools の使用後に QuickTime をインストールされると、Pro Tools が QuickTime のファイルを不明なファイルとして索引する場合があります。これらファイルは、QuickTime がインストールされた後も不明なファイルとして残ります。この問題が発生した場合は Digidesign Database ファイルを削除するか、もしくは QT ファイルで不明なファイルとなっている物を選択し、選択項目の Database をアップデートして下さい。

反対に、QuickTime が存在するシステムにて Pro Tools が使用され、その後に QuickTime がアンインストールされると、QuickTime ファイルが Pro Tools には読み取りできないファイルとして索引される事があります。この問題が発生した場合、全てのデータベース・ファイルを削除して、再度実行してください。

Kensington マウス及びドライバの問題

Pro Tools で Kensington マウスを使用すると以下の問題が発生することがあります：

- ズームする際に Alt キーが動作しなくなる。(Item #61823)
- Shift キーが動作しなくなる。(Item #62376)
- Control キーが動作しなくなる。(Items #61830, #62066, #61980, #61988, #62348, and #62559)

スタックしたキーを解除するために、再度キーを押します。問題が継続する場合は、Kensington ドライバを削除します。

起動時の Windows セキュリティ・アラート (Item #62060)

“ Windows セキュリティ・アラート ” ダイアログ「あなたのコンピュータの保護の為、このプログラムの幾つかの機能が Windows Firewall によりブロックされました。」という旨のダイアログが、Pro Tools 起動時に表示される事があります。これは無視できます (Pro Tools のパフォーマンスには影響しません)。

長時間に及ぶレコーディング時に波形を表示できなくなる問題 (Item #60719)

レコーディングが長時間に及び、20 分から 30 分を経過すると、波形が表示されなくなります。セッションを再度開いた後に再度算出されます。

Pro Tools 起動時のブルースクリーン (Item: #57561) #57561)

Pro Tools をインストールして再起動してもブルースクリーンが表示される場合は、Pace の Web サイトから最新のインストーラーをダウンロードして PACE ドライバーをアップデートしてください。

[入力モニター] モードが有効で、トラックが録音待機状態のときはスクラブが機能しません (Item #59380)

[入力] モニターに設定され別のトラックが録音待機状態のときはスクラブが機能しません。

復旧されたセッションを開いた後のプレイバックエンジンへのアクセスについて (Item#54319)

[セッションファイルの自動バックアップ] を使い保存されたファイルを開くときは、一度新しく名前をつけ、再度保存してください。そのままの場合プレイバックエンジンにアクセスできないことがあります。

エラー・メッセージ “ 指定されたファイルを発見できないため作業を完了できません。 ” (Items #50454 及び #50457)

このメッセージは、管理者権限のないアカウントにログイン中に、以下のいずれかを行うと現れます：

- デストラクティブ AudioSuite プロセッシングの実行
- ワークスペース・ブラウザ内でのファイル・ロック

これはオーディオ・ファイルのアクセス権が読み取り専用になっているために発生するエラーと考えられます。これを回避するには、Windows XP の管理者レベルでのアカウントへログインし、オーディオ・ファイルのアクセス権をフルアクセスの状態に変更する必要があります。管理者レベルでのアカウントへログインする権限が無い場合は、コンピューターの管理者に連絡をするか、Pro Tools 上で [ファイル] > [セッションのコピーを保存] を行い、セッションに含まれる全てのオーディオ・ファイルのコピーを保存する必要があります。

“ アクセスが拒否されたため [ディスクへバウンズ] コマンドを終了できませんでした ” という旨のエラー・メッセージ (Item #50488)

管理者レベル以外のアカウントでログインしている際に、SCSI ドライブのルート・レベルへ「ディスクにバウンズ」を行うと以下のエラーが発生する場合があります。“ Could not complete the bounce to disk command because Access is denied. ” このエラーは、Windows XP においては、管理者レベルでのアカウント以外にログインした状態ではルート・レベルにいかなるファイルの作成もできない事に起因しています。この問題を回避するには、サブディレクトリを作成し、その新たに作成されたディレクトリにバウンズをする必要があります。

管理者レベルのアカウント上以外でのオーバービューの再計算。(Item #50537)

管理者レベルでのアカウント以外にログインした状態でオーディオ・ファイルのオーバービューの再計算を行うと、Pro Tools のタスクウィンドウに以下のエラーが表示されます。「アクセスが拒否されました」「Access denied.」(5)。これはオーディオ・ファイルのアクセス権が読み取り専用になっているがために発生するエラーと考えられます。これを回避するには、Windows XP の管理者レベルでのアカウントへログインし、オーディオ・ファイルのアクセス権をフルアクセスの状態に変更する必要があります。管理者レベルでのアカウントへログインする権限が無い場合は、コンピューターの管理者に連絡をするか、Pro Tools 上で [ファイル]>[セッションのコピーを保存] を行い、セッションに含まれる全てのオーディオ・ファイルのコピーを保存する必要があります。

管理者レベル以下のアカウントからセッションの保存コマンドを実行する。(Item #53335)

管理者レベル以外のアカウントにログインした状態で、CD-ROM (もしくは外付けのハードディスク) からシステムへコピーしたセッションを開き、Pro Tools がセッションの保存を必要とするコマンドを実行しようとするアクセスを拒否されます。そのセッションを [ファイル]>[別名で保存]、もしくは [ファイル]>[セッションのコピーを保存] で保存する必要があります。

QuickTime Movie の上でポップアップ・ウィンドウ、もしくはメニューを開くと Pro Tools がクラッシュする (Item #54237)

QuickTime ビデオ上でポップアップ・ウィンドウ、もしくはメニューを開くと Pro Tools がクラッシュします。QuickTime ビデオを遠ざけた状態でポップアップまたはメニューを開いてください。

Mac/PC 強制互換が有効に設定されていない場合、不適切な文字を含むオーディオ・ファイルやフェード・ファイルを再リンクすることができません。(Item #60728)

Mac/PC 強制互換オプションにチェックを入れずにセッションをコピーした場合、Pro Tools は不適切な文字を含むオーディオ・ファイルやフェード・ファイルを再リンクすることができません。DigiBase ブラウザから、ファイル ID を確認して手動で再リンクしてください。

Mac/PC 強制互換オプションが有効に設定されていない場合、I/O 設定ファイルは不適切な文字ともに保存されてしまう可能性があります。(Item #60730)

Mac/PC 強制互換オプションが無効のまま保存された Macintosh セッションから I/O 設定ファイルをインポートすると、不適切な文字を含むファイルは正確に変換されません (不正な文字はアンダースコアに置き換えられます)。

セッション名の不正な文字がアンダースコアに変換されている場合、ワークスペースから Macintosh セッションを開くことはできません (Item #60243)

セッション名が不正な文字を含んでおり、アンダースコアに変換されてしまっている場合、ワークスペースからは Macintosh セッションを開くことはできません。[ファイル]>[セッションを開く] からセッションを開いてください。

グループ・テンプレート (Item #43997)

Pro Tools では間違ったディレクトリに保存されたカスタムメイドのグループ・テンプレートは復元出来ません。グループ・テンプレートは Grooves フォルダに保存されている必要があります。

QuickTime Player を Wave Driver で使用 (Item #52540)

Wave Driver での QuickTime Player の使用は推奨されていません。特定の QuickTime ムービーのオーディオが同期しない、あるいはプレイバック中に脱落する可能性があります。

Cubase SX をアンインストールする事により Pro Tools ドライバー・インストーラが機能しなくなる (Item #48450)

Pro Tools のインストール中に “ The driver installer could not find the driver information. Please make sure the path to the INF file is correct ” というメッセージが表示される場合、Pro Tools のインストールに先立ち、Cubase のアンインストールが行われており、その為にエラーが発生している可能性があります。これが該当する場合は、Cubase SX を再インストールした上で Pro Tools をインストールして下さい。

[セッションデータをインポート]からトラックをインポートすると[Undo (元に戻す)]の順列がクリアされてしまう。(Item #51775)

リファレンスガイドにも記載されている通り、「セッションデータをインポート」よりトラックをインポートするとUndo (元に戻す)の順列がすべてクリアされてしまいます。特にメインのプレイリストオプションが「インポート - 既存のプレイリストを置き換える」に設定されているとUndo (元に戻す)の順列がクリアされてしまいます。この設定が「インポート - 新規のプレイリストを既存に重ねる」もしくは「インポートしない」に設定されているとUndo (元に戻す)の順列は保たれます。

シャトル・ロック・コマンドが無視されることがあります (Item # 47155)

シャトル・ロック・コマンドが無視されることがあります。問題が起きた際には、再度トランスポートのポップアップをクリックすると元にもどります。

ファイル・マネージメント

残りディスク・スペースの不足した外部ハード・ドライブへ自動保存を行うと、データの損失を引き起こす (Item #94260)

十分な空き容量を持たない外部ハード・ドライブへレコーディング中に、自動保存初期設定をオンにしていると、録音ドライブの空きが完全になくなり、データを損失する場合があります。非常に稀ではありますが、これによって外部ドライブがオフラインになり、Windows システム上で使用できなくなる場合もあります。ドライブが完全にフルになることがないよう、定期的にプロジェクトのバックアップを取ることを推奨します。

セッションを DVD-R に記録中に起こるデータの損失 (Item #59227)

MacDrive 6 DVD/CD バーニング・ユーティリティを使用して DVD-R にセッションのバックアップデータを記録すると、DVD-R 上のセッション・データを損失する可能性があります。詳細は MediaFour へご連絡ください。

Mac でフォーマットされた Firewire ハードディスクを接続すると、起動時にシステムがクラッシュします。(Item #45288)

MacDrive のインストールした後は、必ず Windows が起動し終わってから Mac でフォーマットされた FireWire デバイスをマウントしてください。MacDrive インストール後、電源の入った Firewire ドライブが接続された状態で Windows を起動するとシステムがクラッシュします。

Mac でフォーマットされたドライブのディスク・マネージメント (Item #: 45459)

HFS+ でフォーマットされたドライブが NTFS に変換、あるいは再フォーマットされぬよう、MacDrive サービスを必ずオフにしてください。

Pro Tools のワークスペースからドライブをアンマウントした際に起きる共有情報の紛失 (Item #46273)

共有フォルダや特定のドライブに対して関係していた情報は、Pro Tools 内でワークスペースからアンマウントすることにより紛失してしまいます。

マップされたネットワークドライブが使用できなくなった際、Pro Tools のパフォーマンスが落ちてしまいます (Item #44420)

Pro Tools を使用中はマップされたネットワークの存在と利用状況を確認してください。コンピューターが利用できないネットワーク・ドライブにマップされている場合、Pro Tools のパフォーマンスが低下します。

以前のバージョンの Pro Tools で作成されたセッション・ファイルを開くと見つからないファイルがある (Item #37572)

以前のバージョンの Pro Tools で作成されたセッション・ファイルを開くと、いくつかのファイルが見つからないと表示されます。この場合、再リンクウィンドウにて「ファイル名」と「長さ」によって再リンクできます。「フォーマットの一致」ではリンクが見つからない場合があります。

MIDI

リアルタイム MIDI プロパティが有効に設定されていて、さらにダイアトニック・トランスポーズを使用するように設定された MIDIトラックにセッション・データをインポートした場合、トランスポーズはセッション内の最初のキーを元に行われず (Item #81666)

複数のキー (調)と、リアルタイム・プロパティのキー・トランスポーズが有効に設定された MIDI またはインストゥルメント・トラックを含むセッションから、セッション・データをインポートすると、トランスポーズはセッション内の最初のキーをベースに行われます。これは、ダイアトニック・トランスポーズが各キーに対して正しくなる場所で、リアルタイム・プロパティをオン/オフ切り替えると補正できます。

Pro Tools 7.x セッションよりエクスポートされた MIDI Type 1 ファイルが、Pro Tools 6.x セッションに正しくインポートされない問題点 (Item #72181)

Pro Tools 7.x セッションからエクスポートされた MIDI Type 1(SMF 1) ファイルは、Pro Tools 6.x セッションに正しくインポートされません。MIDIトラックは正しく作成されますが、MIDI リージョンがプレイリスト内の正しい位置に作成されない問題が発生します。プレイリスト内に反映されない代わりに、リージョンリストにのみインサートされます。MIDI リージョンをプレイリストにドラッグする事により、この問題を回避できます。

オランダ語 OS で英語版 Pro Tools LE を使用すると、MIDI パフォーマンスが低下する (Item #59608)

オランダ語 OS 上で英語版 ProTools LE を使用すると、MIDI 出力に遅延が生じます。

MIDI の入力及び出力の選択肢が画面上に全て表示されていない。(Item #53611)

画面の解像度が 1024x768 に設定されている場合、大きな MIDI コンフィギュレーションを使用すると MIDI 入出力セレクトに全ての MIDI 入出力が表示されない場合があります。この問題を回避するには解像度の値をより大きい数値に設定し直してください。

プラグイン

X-Form AudioSuite の視聴パフォーマンス (Item #96728)

Polyphonic モードで Formant スイッチが入った状態で視聴をすると、フォルマント・プロセッシングは、視聴ループが 2 周目になるまで作用しません。さらに、Polyphonic モードで視聴中にフォルマント修正が行われると、スロー・プロセッシングによるオーディオ・ドロップアウトが発生します。

7.x 対応プラグイン及び追加オプション・ソフトウェアのデモ・モード

Digidesign 7.x プラグイン及び Pro Tools 7.x 追加オプション・ソフトウェアには、期間限定のデモ版は含まれません。その代わりに、これらプラグイン及び追加オプションのデモ版を使用するには、iLok USB キー及びデモの iLok ライセンスが必要です。デモ・ライセンスの取得を希望される際は、Digidesign ウェブサイト (www.digidesign.com) の各製品ページにて Demo ボタンをクリックしてください。

別プラットフォームで作成されたセッションのソフトウェア・シンセサイザ・プラグインへの MIDI 出力のリストがイタリック表示になる (Item #54173)

別プラットフォームで作成されたセッションでは、出力の再アサインを行わない限りは、ソフトウェア・シンセサイザー・プラグインへの MIDI 出力のリストがイタリック表示になります。

期限切れのデモ版プラグイン

デモ期間が終了したプラグインを使用すると、Pro Tools LE 上で “Illegal Instruction Attempted” エラーが生じます。この問題を解決するには、デモ期間が終了したプラグインを、プラグイン・フォルダから削除してください。

12 アルファベット文字以上の NTFS ブート・ドライブ名で iLok プラグインの認証に問題が生じる。

NTFS フォーマットのドライブを使用し、そのドライブ名がアルファベットで 12 文字以上の場合、InterLok プラグインのオーソライゼーションに問題が生じます。この問題を回避するには、NTFS ドライブ名を 12 文字未満に変更してから Pro Tools LE を起動してください。変更せずに Pro Tools LE を起動すると、アラートが表示されます。

Mod Delay II プラグインのディレイ・タイム

Mod Delay II のプラグイン・ウィンドウでデュレーション（ノート値）を設定した後、Control | 24 などのコントロール・サーフィスを使用してディレイ・タイムを変更すると、デュレーション・パラメータを無効にできなくなります。ディレイ・タイムは、プラグイン・ウィンドウで設定するようにしてください。

Mod Delay プラグインとオートメーション・データ

Mod Delay プラグインでは、オートメーションが同じコントロールからの入力/出力であるにも関わらず、隣接した左、または、右オーディオチャンネルにオートメーションデータをコピー、または、ペーストすることは出来ません。たとえば、[左ヘフィードバック] オートメーション・データは [右ヘフィードバック] オートメーションへはコピーできません。

Mod Delay のステレオ出力で、左右両方のチャンネルにオートメーション・データを適用するには、ステレオ/モノ・トゥ・ステレオの Mod Delay の代わりに、マルチ・モノ・プラグインを使用してください。マルチ・モノ・プラグインではオートメーションのリンクが可能になり、リンクされた全てのチャンネルに同じオートメーション・データが適用されます。

DigiRack ReWire 使用時の MIDI ビート・クロックのレーテンシー（Item #35457）

Pro Tools から ReWire クライアントへ MIDI ビート・クロック・データを送信する場合、MIDI キーボードを使用して ReWire をトリガーすると極端なレーテンシーが生じます。Pro Tools から ReWire クライアントへ MIDI ビート・クロック・データをルーティングすることは避けてください。

AudioSuite Signal Generator がプロセスしない。(Item #35900)

Pro Tools LE 6.x では、AudioSuite Signal Generator プラグインは [個別ファイルを作成] がデフォルトとなります。オーディオを含まないタイムラインでは、AudioSuite Signal Generator プラグインの [連続ファイルを作成] を選択する必要があります。これを選択しないと、オーディオが選択されていない旨のアラートが表示されます。

Signal Generator プラグインのピンク・ノイズ

Signal Generator プラグインでは、ピンク・ノイズ・シグナル出力が改善され、ルーム校正などにも使用できるようになりました。ピンク・ノイズの出力レベルは、v5.3 以前よりも大幅に高くなっています。ピンク・ノイズ動作中の歪みを防止するには、クリッピングが生じないように、Signal Generator のボリューム・スライダーを -12dB まで下げてください。

Pitch Shift AudioSuite プラグイン

Pitch Shift AudioSuite プラグインで、[TIME CORRECTION] をオフにし、リージョン・リストの複数のステレオ/マルチ・モノ・ファイルをバッチ・プロセスすると、2 番目以降のファイルの右チャンネルは、ランダム・オーディオかホワイト・ノイズとなります。PitchShift プラグインを使用する場合は、ステレオ/マルチ・モノ・ファイルを個別にプロセスするか、またはバッチ・プロセス前に個々のモノ・ファイルへ分割してください。

ビデオ

オリジナル・タイムコードのロケーションを維持することができません。(Item #37628)

(Pro Tools LE with DV Toolkit のみ)

あるリージョンへ現在のタイムコードを再定義すると、Pro Tools に “セッションの境界の外にリージョンまたはプレイリストが存在するため、入力されたタイムコードでは元のタイムコードロケーションを維持できません。相対的な位置を維持するには (O.K) をクリックしてください” と表示されます。相対的な位置でタイムコードを保つには、OK をクリックしてください。ここで OK をクリックすれば、タイムコードは正しくマップされます。

ローカリゼーション一般

英語以外の文字を持つ AAF/OMF シーケンスをインポートすると、文字化けや再リンク不能を引き起こす (Items #95851, #95857, #96279)

Mac ベースの Pro Tools 7.3.1 システム (またはそれ以前) から、英語以外の文字を持つファイルまたはリージョンを含んだ AAF/OMF シーケンスをエクスポートすると、Avid Media Composer、XP ベースの Pro Tools システムまたは Pro Tools 7.4 システム (Windows または Mac) へ正しくインポートできない場合があります。逆に、全ての Pro Tools 7.4 (またはそれ以降) システムからエクスポートされた、英語以外の文字を持つ AAF/OMF シーケンスは、Mac ベースの Pro Tools 7.3.1 (またはそれ以前) システムへ、正しくインポートできない可能性があります。ファイルをリンクするためには、[手動で検索、再リンク] を選択して、[ファイル ID で見つける] 以外のオプションを全て外します。リージョン名は文字化けする場合があります。

DV Toolkit 2

スクラブ・トリム・ツールが、ループされたリージョンをトリムする際にスクラブしない問題点 (Item #72650)

スクラブ・トリム・ツールを使用して、ループ・トリマーでループされたリージョンをトリムしても、オーディオがスクラブされません。

Mbox 2 Pro

コンピュータによっては、H/W バッファサイズが 64 または [I/O レイテンシの増加を最小限にする] が有効に設定されていると、“Audio Play Startup Deadline was Missed” エラーが発生するものがあります (Item #84103)

Mbox 2 Pro を使用する場合、コンピュータによっては、プレイバック・エンジン・ダイアログ内の [再生 / 録音中はエラーを無視する] を有効及び [I/O レイテンシの増加を最低限にする] をオン、または HW バッファサイズを 64 に設定している際に、“Audio Play Startup Deadline was Missed” エラーが起きるものがあります。またこれは、Mbox 2 Pro が外部クロックに同期している場合は、症状が悪化することもあります。これが起きた場合は、クロック・ソースをインターナル (内部) に切り替えて、[I/O レイテンシの増加を最小化] をオフにし、HW バッファサイズを 128 以上に設定してください。

Mbox 2

AC-3 Mode 設定切り替え時に Mbox 2 から発生するオーディオ・ポップ (Item #63293)

Mbox 2 Control Panel 内において、AC-3 オプションにチェックを入れるまたは外すと、アナログ・アウトプットからオーディオ・ポップが発生する。

Mbox 2 は 49 KHz 以上のサンプルレートには非対応 (Item #63141)

Mbox 2 は 49 KHz 以上のサンプルレートをサポートしません。これは USB 1.1 の帯域制限と USB コントローラーに起因します。これは、外部 S/PDIF クロックに同期して、サンプルレートが 2% あるいは通常の 48 KHz 以上に引きあがった時のみ起こる問題です。

Mbox

Mbox 及び Pro Tools LE 使用時の推奨ハードウェア・バッファサイズ (Item #38657)

Mbox 及び Pro Tools LE 使用時の推奨ハードウェア・バッファサイズは 512 samples です。

Pro Tools LE の起動中に Mbox を接続すると認識されない事がある (Item #43449)

Pro Tools LE 起動時に Mbox の USB コネクタを接続すると、インターフェースが認識されない事があります。これを避ける為に、Pro Tools LE の起動前に Mbox を接続して下さい。

[ハードウェア設定] ダイアログの [ペリフェラル] に「インターフェースなし」と表示される (Item #37383)

Mbox を使用する際、ハードウェア設定内のペリフェラルのセクションで、インターフェースがありませんと間違ったダイアログが表示されることがあります。これは問題を提示しているのではありませんので、無視してください。

エラー・メッセージ

再生中の -6031 エラー (Item #32637)

複雑な MIDI やオートメーション・データを持つセッションを再生中に -6031 というエラーが生じたら、再生を一旦止め、セッションを保存し閉じてください。そして Pro Tools を終了してから再起動し、そのセッションを再び開いて作業してください。

Error -6097: 002 ユニットとのコミュニケーション不良

-6097 エラーに遭遇した場合は、クロック・ソースが有効かどうかを確認してください。もしくはハードウェア・バッファ・サイズを増やすかプラグインをいくつか削除して、DAE メモリーを節約してください。

AMD Dual-Core プロセッサにて録音を始める際の DAE -9093 エラー

AMD Dual-Core プロセッサを使用する際、トラックカウントに関係なく、録音を始める際に DAE -9093 エラーが発生する事があります。もしこの問題が発生した場合は、プレイバックエンジンにて、異なった HW バッファサイズを選択して下さい。問題が回避できたら、HW バッファサイズを以前の数値に戻して下さい。

DAE Error -9132

ハードウェア・バッファサイズ設定を最高値に設定しているにも関わらず、[ディスクヘバウンズ] 中に -9132 エラーが生じたら、セッション上に録音用のトラックを作成し、目的のトラックから内部バスを適切にアサインして、ディスクに録音してみてください。

Pro Tools ガイドの修正

新機能ガイド

PN 9320-56790-01 REV A 08/07 及び PN 9320-56791-01 REV A 08/07

以下は、*Pro Tools HD 7.4 新機能ガイド*及び *Pro Tools LE and M-Powered 7.4 新機能ガイド*における訂正事項です。

エラスティック・オーディオ

*Pro Tools HD 7.4 新機能ガイド*及び *Pro Tools LE and M-Powered 7.4 新機能ガイド*の 5 ページ第 3 パラグラフに、「エラスティック・オーディオは、ループの操作、演奏の修正、リミキシング、サウンド・デザインや特殊効果、映画音楽やポストプロダクションなど様々なワークフローで役立ちます」とありますが、以下の通りに訂正します。

訂正:

「エラスティック・オーディオは、ループを使った作業、演奏の修正、リミキシング、サウンド・デザインや特殊効果及び映画音楽の様々なワークフローで役立ちます」

映画音楽及びポストプロダクション

*Pro Tools HD 7.4 新機能ガイド*及び *Pro Tools LE and M-Powered 7.4 新機能ガイド*の 6 ページに記載されている、映画音楽とポストプロダクションに関するセクションに「エラスティック・オーディオを使ってプルアップまたはプルダウン率を調整できる」と記載されていますが、これは誤りです。このセクションを以下の通り訂正します。

訂正:

セクションのタイトル 「映画音楽」

本文 「映画のシーンに対するスコアを作成する場合、エラスティック・オーディオを使って、音楽を必要な長さに合わせることができます。テンポ変更を使って、アツチレダントやリタルダントの効果を得ることもできます」



複数のキューを持つセッションでテンポ変更を使用すると、それによりタイムライン上にある別のキューのタイムコード位置に影響する可能性がありますので、ご注意ください。



エラスティック・オーディオはブルアップ及びブルダウン・ワークフローには推奨されません。セッション設定ウィンドウのリアルタイム・ブルアップまたはブルダウンを使用するか、*DigiRack Time Shift* または *X-Form Audio Suite* プラグインに含まれるプラグイン設定を使用します。

Varispeed

Pro Tools HD 7.4 新機能ガイド 及び *Pro Tools LE and M-Powered 7.4 新機能ガイド* の 20 ページの Varispeed プラグインに関して、「ポストプロクシオン・ワークフローに役立つ」と記載されていますが、これは誤りです。以下の通り訂正します。

訂正：

「テープのような速度変更の効果を得るには、Varispeed プラグインを使用して時間と音程の変更をリンクします。Varispeed プラグインには、プラグイン特定のコントロールはありません。」

